

重点目標・評価項目・評価の観点

【評価】 A：十分達成 B：ほぼ達成 C：やや不十分 D：不十分 %

重点目標	評価項目	評価の観点	成果と課題	A	B	C	D
Ⅰ 丁寧な指導により、生徒の学習意欲と学力を高める	1 個別指導の充実と一人ひとりの生徒の学習状況についての情報共有	生徒一人ひとりの学習課題を把握し、学習状況について情報共有を密にできたか。	生徒個々に学習課題の把握ができており、職員間での学習状況についても情報共有ができた。引き続き、情報共有を細目に行うことでさらなる効果が期待できる。	40	60		
	2 苦手教科のある生徒へのキメの細かい指導	補充指導や提出物の指導などに取り組めたか。	授業評価の結果をそれぞれの授業に反映することができた。また、英語・数学はコース別で選択ができ、学力ごとに無理のない指導に繋がった。補充指導については不十分なところもあり、担任と教科担当との連絡を密にして適切な働きかけが必要である。	20	60	20	
	3 各教科における指導方法の改善、授業力を高める工夫	学習状況についての情報共有、教材の工夫、授業評価を実施して授業改善に取り組めたか。	教科によって授業方式が異なり、生徒の学習意欲向上に繋げることができた。教材の工夫・授業改善について生徒が興味・関心が持てるようにさらに工夫が必要である。	40	50	10	
	4 特設授業の充実と意欲ある生徒への学習支援	生徒の学習意欲や学力向上の期待に応える授業の工夫ができたか。	職員の熱心な教材研究により工夫された授業が行われ、多くの生徒が自主的・意欲的に学習できた。受講生には学力差が大きく、能力に応じた指導に工夫が必要である。	30	50	20	
	5 個に応じた指導の充実	進学や基礎力補充、就業支援の目的に応える学習指導、補習が実施できたか。	希望者に対しては、概ね要望に応えることができた。また、生徒からの質問にも職員の丁寧でわかりやすい指導により、保護者からの評価も高い。さらに、伸び代に応じた指導を進めたい。	40	50	10	
Ⅱ 生徒の自立を支援する	6 生徒の抱えている悩みや障害の把握	早い段階で生徒の悩みを把握し、対応できたか。	複数の教員による面談を実施することはできた。日ごろから生徒の表情などを細かく観察し、いつもと違った様子が見られる場合は声掛けや面談を行うなど、早期発見と速やかな対応が必要である。		80	20	
	7 生徒支援チームの活動の充実	生徒支援チームを立ち上げ機能させることや外部機関との連携による支援や生徒支援に関する情報の共有ができたか。	支援チームの立ち上げが迅速に行われ、必要な外部機関との連携を図ることができたが、職員間の生徒支援に関する情報共有が不十分であった。さらに支援チームを活動させ、情報共有していく必要がある。	30	40	30	
	8 開かれた学校づくり、外部機関との連携	地域に開かれた学校づくりと、外部機関との連携により生徒の自立を支援できたか。	外部機関との連携による生徒への支援は適切に行うことができるようになってきている。幅広い分野の講師を地域から招くなどの工夫が必要である。	10	60	20	10
	9 在校生の就業(アルバイト)支援	一人ひとりの生徒の希望に応えた就業支援ができたか。	複数の事業所からの求人や生徒間の紹介等が多くあり、アルバイトを希望する生徒のほとんどが就業して社会勉強の機会を得ることができた。早期から卒業後の進路を見据えて考える機会を増やしていく必要がある。	30	60	10	
	10 キャリア教育の充実	インターンシップ、就業体験活動などを計画し実施できたか。	約60%の生徒が就労しながら学校生活を送っているため、インターンシップへの参加者は少なかった。就職後に離職することがないよう、就業体験を通して個々の生徒が自分自身の適性を理解し職業選択に活用できる機会としたい。	30	50	10	10
Ⅲ 早期からの進路指導を充実させ、多様な進路希望実現を図る	11 個々の進路目標の早期確立支援	進路講話、進路ガイダンス、個別面談などを通じて支援ができたか。	様々な進路学習の実施を通して、生徒の進路意識の向上に取り組むことができた。さらに個別面談などを利用して、生徒へのやる気を引き出し、早期からの意識づけに繋げたい。	60	40		
	12 三修制生徒の進路指導の充実	三修制生徒の学力保証を確実にとおこない、適切な進路指導ができたか。	進学に対応できるよう工夫した取り組みが行われ、多くの生徒が自主的に学習できた。しかし、学力差が大きいため、個々に応じた工夫が課題である。	40	60		
	13 就職希望者に対する進路指導の充実	職安など外部機関と連携して適切な進路指導ができたか。	進路係を中心に外部機関との連携が図られ、生徒の希望職種への就職支援につながっている。早期からの生徒への意識づけが今後の課題である。	50	50		
Ⅳ きれいな学校をつくる	14 全校清掃の計画と実施	定期的な全校清掃で校内外の美化が図れたか。	年間の清掃計画に従い、生徒・職員ともに清掃美化に取り組むことができ、衛生的な環境で学校生活を送ることができた。引き続き生徒の環境美化に対する意識を高める研究が必要である。	90	10		
	15 上下履きの区別	登校時指導、生徒会の協力等で上下履きの区別はできたか。	厚生委員・係・担任による働きかけや上履きへの着色テープ貼りの徹底により区別ができた。さらに生徒会からの働きかけなどの方策を検討していく必要がある。	40	30	30	
	16 健康や環境に対する意識の向上	総合的な学習で健康、環境に関する学習に取り組めたか。	全校清掃やクラス清掃を通して、学校内外の美化により、健康・環境に対する意識を高めることができた。さらに意識向上に向けた取り組みについて検討・工夫することが必要である。	20	50	20	10
Ⅴ 生徒にとって居場所のある楽しい学校をつくる	17 LHR時間の充実	LHR時間の確保と充実が図れたか。	クラス内のスポーツレクリエーションや個別の進路指導の時間として利用した学年もあったが、木曜日の5限目に設定されていたため、学年によってはクラス独自の活動時間を確保することができなかった。次年度は日課内の4時限目にLHRを確保し、内容も検討して充実を図りたい。	10	40	40	10
	18 生徒主体による行事の実現支援	生徒会による行事の運営と仲間づくりにつながる行事を実現できたか。	生徒会役員を中心に徐々に生徒が主体的に行事の企画・運営に携わることができるようになった。全校生徒一人ひとりが主役として行事に関わり、仲間づくりにつなげる取り組みが必要である。	30	50	20	
Ⅵ いじめ・暴力・体罰のない安心・安全な学校をつくる	19 いじめ・暴力・体罰のない安心、安全な学校、居場所づくり	いじめ・暴力・体罰など人権侵害について、生徒の意識を高めるとともに発生した事案に適切に対処できたか。	暴行・脅迫事案が1件あったが、人権学習や集会、各教科で生徒の意識を高める取り組みが奏効している。日ごろから「いじめ・暴力は許さない」という姿勢で、全職員が高い意識を持って生徒を見ていく必要がある。	40	50	10	